

本授業は、以下の検証を行うものである。

子供たちが表現と鑑賞を同時に味わえる場の設定（題材設定の工夫）やICT機器を用いたお互いの作品を鑑賞する時間の設定は、自分の表現を見つめ、表し方の変化を振り返り、「造形的な見方・考え方」を深める「深い学び」を実現するための手立てとして有効であったか。

1 題材 光とかげから生まれる形（造形遊び）

2 目標

いろいろな材料を組み合わせることができる影の形や色の映り方を楽しむことができるようにする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 影の映し方を理解し、視覚的な効果を試しながら、面白い影の組み合わせを工夫している。	○ 影にしたい材料を考えたり、新しい影の組み合わせを思い付いたりしている。 ○ 材料の組み合わせ方や光の当て方を工夫し、映し出された影の形や光の色などの感じから、自分なりのイメージをもっている。	○ 材料を組み合わせたり、映った影の形や光の色などの感じを鑑賞したりする活動に進んで取り組み、つくりだす喜びを味わっている。 ○ 光と影の効果を生かした活動の面白さや、表現の工夫を感じ取っている。

4 題材について

(1) 題材について

本題材は学習指導要領第3学年及び第4学年の「A表現」(1)「造形遊びをする活動を通して、身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや新しい形や色などを思い付きながら、どのような活動にするか考えること。」及び「B鑑賞」(1)ア「身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。」、[共通事項](1)イ「形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。」に基づいて設定した題材である。

この時期の子供たちは、ある程度対象との間に距離をおいて考え、そこで気付いたことを活用して活動することができる傾向がある。また、扱える材料や用具の範囲が広がり、多様な試みが見られるようになるとともに、友人の発想やアイデアに関心をもったり、表し方を紹介し合ったりするなど、周りとの関わりも活発になる。

そこで、本題材では、影の映し方やそこから生まれる視覚的な効果を理解し、身近にあるいろいろな材料や用具の組み合わせを工夫したり、光の当て方や組み合わせ方によって変わる影の形や色を楽しんだりしながら、自分なりのイメージをもって活動することができるように指導する。こうした活動を通して、表現と鑑賞を一体とした学びの中で、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うことができるようにする。

(2) 子供について

これまで子供たちは、第2学年で「ひかりのプレゼント（造形遊び）」において、色セロハンや色水の入った容器などを組み合わせ自分の表したいものを表す活動を行ってきた。「造形遊び」についてのアンケートでは、「様々な材料や道具を使って活動することは好き。」と答えている子供は31名、苦手と答えている子供は3名であった。苦手な理由として、「何をつくればよいか分からないから。」「材料を使っても、うまくいかないから。」と答えた子供が見られた。

そこで、材料から自分なりに活動を思い付くことができるようにするために、活動の途中に他者の製作を鑑賞できる場を設定したり、対話しながら製作を行うことができるよう共同製作を設定したりしていく。また、表現と鑑賞が一体となった学習過程を設定し、自分・他者・作品との対話を通して、造形的な見方や感じ方を広げることができるようにする。

(3) 指導について

本題材では、材料をどのように組み合わせるのか、どのように光を当てるのかといった表現とともに、できた影の形や光の色の感じなどの鑑賞を絶えず繰り返す中で、つくり・つくりかえ・つくる楽しさを味わわせたい。そこで、「思いをもつ」過程では、題材との出会いを大切に。場の設定や参考作品の提示の仕方を工夫したり、これまでの学習や生活経験を想起し、影の映し方を共有したりすることで、見通しをもって意欲的に活動できるようにする。「思いをふくらます／思いを表現する」過程においては、予め用意していた材料から身近にある材料に視野を広げ、材料に働き掛けながら活動を思い付くことができるようにする。「自他のよさに気付く／新たな思いをもつ」過程においては、ICT機器を用いて製作の過程を含めた鑑賞活動を行う。そうすることで、これまでの自他の製作の過程を振り返り、自分の表現を見つめ、「造形的な見方・考え方」を深める深い学びを行うことができるようにする。

5 指導計画（総時数 2 時間）

過程	主な学習活動	時間
思いをもつ	1 場や参考作品と出会い、題材のめあてを捉える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">いろいろな材料を組み合わせ、光とかげのすてきな世界をつくりだそう。</div>	1
ふくらます 思いを	2 材料に光を当て、影を映し出す方法を知る。 3 光の当て方を工夫したり、光を通さないものと通すものを用いて影を映したりして、映った影の形や光の色などの感じを鑑賞する。	
表現する 思いを	4 持ち寄った身近にある材料を基に、本時の活動の見通しをもつ。 5 材料の組み合わせや光の当て方を工夫して活動する。	1 (本時)
自他のよさに 気付く 新たな思いをもつ	6 自他の製作過程を鑑賞し、更に製作活動に生かす。 7 活動の面白さや造形的な視点を基にした鑑賞活動を全体で行う。 8 実生活にある作品を鑑賞し、学んだことを実生活に生かそうという思いをもつ。	

6 本時（2 / 2）

(1) 目標

身近な材料を組み合わせたり、光の当て方を工夫したりしてできた影の形や光の色などの感じから、自分なりのイメージをもち、活動を工夫することができるようにする。

(2) 評価規準

材料の組み合わせ方や光の当て方を工夫し、映し出された影の形や光の色などの感じから、自分なりのイメージをもっている。 【思考・判断・表現】

光と影の効果を生かした活動の面白さや、表現の工夫を感じ取っている。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 指導に当たって

「思いをもつ／思いをふくらます」過程では、それぞれの家庭から持ち寄った身近な材料を紹介し合い、光を当ててみることで発想を更に広げることができるようにする。その際、光の当て方を変えても影が変わることを共有し、活動で生かすことができるようにする。

「思いを表現する」過程では、共同作業を設定する。そうすることで、造形的な視点を媒介にした対話を促し、自分のもっている「造形的な見方・考え方」を広げることができるようにする。また、場の設定を工夫し、材料の場と活動の場の動線で自他の作品を鑑賞できるようにする。そうすることで、表現と鑑賞を絶えず行き来し、つくり・つくりかえ・つくることができるようにする。

「自他のよさに気付く」過程では、視点（活動の面白さ、造形的な視点）を明確にした鑑賞活動を行う。その際、ICT機器を用い、活動の変容を含めた鑑賞活動を設定することで「造形的な見方・考え方」を更に深めることができるようにする。

「新たな思いをもつ」過程では、実生活にある作品を紹介する。そうすることで、授業での学びと実生活をつなぎ、生活の中の美術と豊かに関わろうとする意欲を高めることができるようにする。

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
思いをもつ／ 思いを表現する	3	<p>1 前時の学習を想起し、持ち寄った材料を紹介し合う。</p> <p>2 本時のめあてを立てる。</p> <p>持っている身近な材料でどんなことができるか、いろいろとためしてみよう。</p>	<p>○ 持ち寄った身近にある材料を紹介し活用の仕方を共有することで、発想に広がりをもたせることができるようにする。</p> <p>○ 活動の工夫について焦点を当てることで、表現・鑑賞活動において技能の優劣にとらわれずに活動することができるようにする。</p> <p>○ 製作過程をおおよそ提示することで、鑑賞までの行程を意識した製作活動を行うことができるようにする。</p>
思いを表現する	3 0	<p>3 活動の見通しをもつ。</p> <p>4 材料の組み合わせや光の当て方を工夫して活動する。 他者をつなぐ</p> <p>5 自他の製作過程を鑑賞し、更に製作活動に生かす。</p>	<p>○ 場の設定を工夫することで、活動の動線に鑑賞の場を設け、表現と鑑賞を絶えず行き来することができるようにする。</p> <p>○ 共同作業を設定することで、[共通事項]を媒介に対話活動を活性化することができるようにする。また、場合に応じて、作品のテーマを問い返すことで、形や色などの感じを視点に対話を行うことができるようにする。</p> <p>○ 鑑賞の視点を与えたり、根拠を問い返したりすることで、「造形的な見方・考え方」を深めることができるようにする。</p> <p>※ 材料の組み合わせ方や光の当て方を工夫し、映し出された影の形や光の色などの感じから、自分なりのイメージをもっている。</p> <p>(活動の様子)【思考・判断・表現】</p>
自他のよさに気付く／新たな思いをもつ	1 2	<p>6 全体で鑑賞活動を行う。 自分／他者をつなぐ</p> <p>7 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>8 実生活にある作品を鑑賞する。</p>	<p>○ ICT機器を用い、製作の行程を含めた鑑賞活動を行うことで、単に成果物としての影の鑑賞だけでなく、活動の工夫や製作過程の変容にも気付くことができるようにする。</p> <p>※ 光と影の効果を生かした活動の面白さや、表現の工夫を感じ取っている。</p> <p>(活動の様子)【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○ 本題材で扱った内容が実生活でも取り入れられていることを紹介することで、生活の中の美術と豊かに関わろうとする意欲を高めることができるようにする。</p>